

医療現場ニーズ勉強会（青森 MOT）

【青森会場】

主催：青森県、(公財)21あおり産業総合支援センター 後援：(一社)日本医工ものづくりコモンズ(予定)

本勉強会は、医療現場で活躍する医師や医療スタッフの皆様から、製品開発のアイデアとなる現場での困りごとや課題、開発を進める上で必要な医療現場での基礎知識を伺う機会です。

青森県立中央病院の医療関係者、青森県内ものづくり企業、医療機器メーカー等が参加しますので、医療者との連携による開発・製造・販売に向けた交流の場にもなります。会社の将来を見据えた新分野進出を検討している方、既に医療福祉機器分野に参入している方もぜひ、御参加ください。

- 日時：2018年11月5日（月）13:30～16:00
- 場所：ラ・プラス青い森 3階「ブルム」(青森市中央1-11-18)
- 対象：将来に向けて新分野進出を検討している中小企業者、自社技術を活かし、医療福祉機器関連分野へ参入しようとしている中小企業者等

参加
無料

定員：先着50名様

●プログラム(予定)

時間	講義名	講師氏名
①13:40～14:30	基調講演	(一社)日本医工ものづくりコモンズ 専務理事 柏野 聡彦 氏
②14:40～15:50	ニーズ発表	※発表ニーズの概要はチラシ裏面をご覧ください。
	ニーズ発表①	青森県立中央病院 臨床検査部 部長 北澤 淳一 氏
	ニーズ発表②	青森県立中央病院 臨床工学部 主査 菅原 幸治 氏
③15:50～16:00	名刺交換会	医療関係者、首都圏医療機器メーカー、ものづくり企業等、多職種による名刺交換会

- お申し込み 参加を希望する方は、以下の申込書に記載のうえFAX又は同内容をメールください。
※ご参加の皆様には、「秘密保持宣誓書」をご提出いただきます。(様式は当方から後日送付)

送信先：21あおり産業総合支援センター 取引推進課 鹿内 行

FAX番号 017-721-2514 メール iryo@21aomori.or.jp

参加申込書

申込期限：2018年11月1日(木)

会社名・団体等			
TEL		FAX	
連絡先のE-mail			
役職	氏名	ご意見・ご質問等(自由記載)	

●お問い合わせ

青森県商工労働部産新産業創造課 ライフイノベーション推進グループ 葛西 (電話) 017-734-9420
(公財)21あおり産業総合支援センター 取引推進課 鹿内 (電話) 017-775-3234

ニーズ発表 青森県立中央病院 臨床ニーズの一例

平成30年11月5日 青森MOT (青森)

No	診療科	開発するデバイスの種類	デバイス開発の背景 (臨床現場の現状と問題点)
1	臨床検査部、 臨床遺伝科、 感染管理室、 「医療の質」総合 管理センター	真菌感染症の診断装置	真菌感染症の診断は極めて難しい。質量分析装置を持つ施設では、比較的簡易に診断ができるが、質量分析装置を持たない多くの市中施設では早期診断は困難。診断までに時日を要することが多いが、真菌に感染するような患者さんは予後不良で免疫不全に陥っていることが多いため、治療は一刻を争う。そのため確実な菌種の早期診断が望まれる。
2	臨床検査部、 臨床遺伝科、 感染管理室、 「医療の質」総合 管理センター	抗菌薬適正使用のための 診断補助	感染症の診療の上で、抗菌薬適正使用が問題となっている。すでに溶連菌、インフルエンザ、RS ウイルス、ロタウイルス、ノロウイルスなどは、簡易キットが発売され、臨床に貢献している。いまだに複雑な手技を要するもの～培養など時間を要する病原菌が多く存在する。それらの簡易診断キットの開発が望まれる。
3	臨床検査部、 臨床遺伝科、 感染管理室、 「医療の質」総合 管理センター	バーコードではない 患者認証システム	現在は、患者さんに注射投与、輸血実施、検査実施時など、患者確認を目的に手首に巻いたリストバンドに印字されているバーコードを読み取って確認している。夜間入眠中では布団の中に手が入っているため、またリストバンドが装着できない状況では、バーコード認証ができず、ベッドネームに入れたり、医療安全上問題のある状況。注射の確認など、応用が可能。
4	臨床検査部、 臨床遺伝科、 感染管理室、 「医療の質」総合 管理センター	簡易点滴速度計算装置	精密点滴量が必要なデバイスとしてはシリンジポンプや輸血ポンプが利用されている。しかし、それ以外でも、看護師が点滴セットの途中にある筒の滴下をクレンメで調整することで点滴流量を調整していることが多い。しかし、患者さんの状況によって点滴速度が変わってしまうことがあり、医療事故につながる。
5	臨床検査部、 臨床遺伝科、 感染管理室、 「医療の質」総合 管理センター	文書管理・認証システム	病院には様々な文書があり、印をつくもの、手書きにするものなど何種類もある。特にISO 15189 認定を受けた当臨床検査部ではすべての記録が紙として残り、しかも印が必要となっている。その労力はかなり大きいので、記録を管理し、また印をつかないでも承認を行えるシステムの開発を期待する。
6	臨床工学部	遮光薬剤投与に使う 点滴ラインの遮光材	点滴速度の遅い患者に遮光が必要な薬剤を投与する場合、点滴ラインに手作業で遮光材を巻いている。簡単に遮光材を巻きたい。
7	臨床工学部	点滴ライン抜去防止 アイテム	患者がベッド移動などの際に点滴ラインがどこかに引っかかり、それに気づかず移動させたことで点滴針が抜けてしまうことがある。患者が自分で点滴を引き抜いてしまう事もある。ある程度引っ張られたら音で注意を促すなどのものがほしい。
8	臨床工学部	災害医療の資機材バッグ を機能的にしたい	災害などにより院外での医療活動が必要になった場合、医薬品や医療資材を現場に運び活動する。場合により医療資機材のほか着替え等の私物を持参する事がある。複数の荷物をまとめたい。
9	臨床工学部	バッグボードの伸縮軽量化	持ち運ぶには大きい。軽量でコンパクトな物がほしい。
10	臨床工学部	医療機器バッテリー	医療機器のバッテリー価格が高い。ジェネリックバッテリーが作れないか。
11	臨床工学部	シリンジポンプ等	患者搬送中に AC 電源が無くバッテリーも尽きた医療機器で何とかして薬剤投与を継続したい。